

2012年度を振り返って

1951年の創立以来、60年を越えて歴史を積み重ねてきたミネベアグループ。私は4年前に当社のトップに就任した際、創立100周年に向けた基盤をつくることの必要性を強く感じ、内外に向けてその実行をお約束いたしました。

そのために重要なことは、経営の基本方針「五つの心得」で挙げている従業員、お客様、株主の皆様、地域社会、国際社会はもちろん、お取引先様、そして私たちを取り巻く地球環境も含めた、すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを大切にし、その期待に応えていくことだと考えています。2012年度は、こうした認識の下、CSRの分野でもさまざまな取り組みを進めてきた1年でした。

当社グループは、東日本大震災が発生した2011年の7月に、創立60周年を迎えました。多くの尊い命が失われた大災害発生を受けて、当初企画していた60周年記念事業を取りやめ、震災孤児たちの支援事業として2012年8月に「公益信託ミネベア東日本大震災孤児育英基金」を設立しました。この基金は、60年にわたって当社を支えてくださった皆様や、世界中のすべての関係者に感謝の意を表し、そして従業員にとっても日々の活動の誇りとなる社会貢献事業とするために、当社の「60周年記念事業」として企画いたしました。2013年3月には、支援する中学生の卒業を祝して東京に招き、祝いの金品の授与や催しを実施。つらい出来事の後にもかかわらず、明るく前向きに生きていこうとする子どもたちの姿に、取り組みの決意を新たにいたしました。今後もさまざまな活動を通じてご両親を亡くされた子どもたちが実りの多い生活を実現できるよう、長期的かつ多岐にわたる支援を続けていく所存です。

また、当社グループではこれまで環境負荷の削減についても企業の当然の責務ととらえて環境経営の強化を進めてきましたが、2012年度は、生産工程における環境負荷削減や環境配慮製品の提供などこれまでの取り組みが高く評価され、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)の環境格付で最高ランクのA評価をいただくことができました。これに基づく環境格付融資を利用して、群馬県安



ミネベア株式会社
代表取締役 社長執行役員

見沼由久

中市の松井田工場敷地内に「ミネベア国内工場でも最も優れた省エネ工場」をコンセプトに新たに工場を建設しています(2013年11月完成予定)。新工場は、高断熱性による空調能力の低減や、高効率設備の導入により電力負荷の削減を実現するなど、当社グループが国内外の工場建設によって培った省エネのノウハウを最大限に活用、より環境に配慮したもののづくりが可能となります。

さらに、社会から必要とされる企業であり続けるためには、地域社会とのコミュニケーションをより深める必要があるとの認識の下、2012年10月には、本社のある長野県北佐久郡御代田町で、町長をはじめ地域の方々をお招きしてのダイアログを実施。当社グループの業務内容や経営方針についてあらためてご説明するとともに、地域の皆様からのさまざまなご要望やご意見をお聞かせいただきました。昨年のサプライヤー・ダイアログに引き続き、こうしたステークホルダーの皆様との直接のコミュニケーションより、新たな発見が多く得られることを実感しております。今回いただきましたご意見についても工場運営や事業展開に積極的に生かしていくとともに、す

すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを進め、信頼関係をいっそう高めてまいりたいと思います。

「真摯なもののづくり」を追求し、さらなる進化を続ける

当社グループが社会に果たすべき使命は、CSR基本方針にも掲げているように、より信頼性が高くエネルギー消費も少ない高品質の製品を、より多く効率的・安定的に生産して世の中に提供していくこと。すなわち私たちの原点である「真摯なもののづくり」を徹底して追求していくことです。厳しい競争の中で、効率化や最適化を進めるとともに、新たな技術を生み出すための研究開発に積極的に力を注ぐ、そうしたもののづくりの姿勢を変えず受け継ぎ、守り続けてきたからこそ、現在のミネベアがあると考えております。

一方で近年、企業を取り巻く経営環境は目まぐるしく変化を続けています。東日本大震災のみならず、2011年10月に発生したタイでの洪水に象徴されるように、企業はこうした自然災害リスクに対しての備えを高度化するとともに、事業を通じて解決策を生み出していく必要があります。また、急速な技術革新、ビジネスサイクルの短期化などを背景に、当社グループの「真摯なもののづくり」に対する期待も、今まで以上に高いレベルが求められています。例えば、自動車の高い燃費効率、省エネを実現するために、厳しい条件をクリアした高性能部品の開発などの分野は非常に注目されています。当社は、自動車の電力消費率や、ハイブリッド自動車／電気自動車（HEV／EV）の走行性能の改善につながる製品として高性能レゾルバ（角度センサー）を供給しているほか、昨年はEVの走行モーター向けVR型レゾルバを開発し、納入を開始いたしました。また、今秋には自動車エンジンのダウンサイジングに貢献するターボチャージャー（過給機）用ベアリングユニットの量産を開始いたします。このほかにも、社会の中で果たせる当社の役割は、大きな領域に広がっています。

こうした期待に応え続けていくためにも、私たちの「もののづくり」には、さらなる進化が必要であると考えています。具体的には、ミネベアがこれまで積み重ねてきた経

験と高い技術力を集結させ、部門の壁を越えて総合的な力を最大限に発揮していくこと。そして、従業員一人ひとりが、昨日までの常識にとらわれず、新しい発想、習慣でもののづくりを追求する。そうした「より賢い」もののづくりの形を、従来の「よりよき品を、より早く、より安く、より多く」という当社のもののづくりの哲学に加えていくことが、幅広い分野で社会に貢献していくことにつながると確信しております。こうした取り組みの一環として、2013年1月に東京本部を東京都港区三田に移転。ここに新たに開発環境を整備・充実させた「東京研究開発センター」を設け、製品開発をいっそう効果的、効率的に進められる体制を強化しています。今後は当センターが中心となって開発に取り組み、これまで培った精密な機械加工、小型モーターやセンサー技術を生かしつつも、単なる部品提供にとどまらない、高い信頼性を備えた複合製品の開発に注力していきます。そして、これらを活用したもののづくりを通じて、さらに高度なレベルで社会への貢献に努めていきたいと考えています。

情熱に勝る能力はない——全社が一丸となって

「真摯なもののづくり」を追求し、ミネベアを社会から信頼される会社へと導いていくのは、従業員の力にほかなりません。そのためには、従業員一人ひとりが広い視野を持ち、互いに切磋琢磨し合いながら、情熱を持って取り組みを進めていくことが何よりも肝要です。

物事を実現していくために、「情熱」に勝る力はないというのが私の持論です。当社のコーポレート・メッセージ「Passion to Exceed Precision」には、「単なる精密を超えた『超精密なもののづくり』を目指すこと、また単なる精密部品メーカーを超える新しい形のメーカーを目指すことに向けた従業員一人ひとりの情熱」という意味を込めています。このメッセージを胸に刻んで、全社一丸となって前に進んでいきたいと思っています。

本レポートでは、そうした思いの下で取り組んできた、当社グループの事業活動およびCSR活動について詳しくご紹介しています。ぜひお読みいただき、さまざまなご意見をお寄せいただければ幸いです。